11/5(土) まいど！倫々号です。楽しく学ぶ 人それぞれでしょう。学び方は！
けど 生涯学習である事には 間違いないでしょう。但し楽しく学びましょう。
感謝

幸せ運ぶマホー鳥

今週の倫理

2022. 11. 5～11. 11

11月のテーマ ｜ 学ぶ楽しさ

1306号

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所第二代理事長・丸山竹秋（一九二一―一九九九）のことばを掲載いたします。

一生涯教育だ

丸山竹秋

学校を卒業してしまうと「ヤレヤレ、これで教育は終わった」と肩の荷をおろしたように思う人があるようだが、そうだろうか。

学校とは何か。これは一口にいうと、人生生活のいろいろな事柄の、いわば基本的な事項を教える所にすぎない。英語なら、文法とか、主な単語とか、それらの発音とか、そういったものから、文章の構成その他を教えられるのが学校なのだ。そうした基本を知らなければ英語を使うことはできない。学校では、英語に限らず他の科目でも、そうした基になるものを、それぞれ教えようとするのだ。

学校を出たら、そうした基本をいかに実際の事柄に当てはめて、活用してゆくか。その中でまた新しいことを次から次へと教えられ、また学んでゆく。これが人生というものだ。

学位をとったなどと威張るなかれ。学位がとれたというのは、学問的にその程度の値打ちがあるという証書を得られたというようなものにすぎず、それから先にまだまだ山のように高く、星空のように広く未知の世界があるのだ。経営などに関する学校を卒業して、ただちに企業などの経営ができるのか。実際のことは千変万化、進展無限である。学校を出ただけで経営ができるならば、何も苦労はない。赤字の会社、倒産の悲哀などが、いくつもある世の中ではないか。失敗を重ねながらも、実際に学び、一歩一歩と内容を高め、質を向上させながら進んでゆくのが人生なのである。

青年と老年との中間の年頃、四十歳前後の、いわゆる働き盛りの頃を中年とか壮年とかいうが、こうした年頃では、体力は別としても、吸収力や発揮する力がもっとも盛んで、実地に学び取ることは多いはずである。いわば人生中学校の活力生徒ともいうべき人たちが、たくさんいるはずなのに、中にはボヤボヤとして怠け過ごし、尊いエネルギーを消耗させている者もまじっているのではないか。学べ、学べ、うんと学べ。学びとるべきものは、私たちのまわりには無数にまた無量にある。

受胎してから死ぬまで生涯はずっと学習の続きである。教えられ、学び、人生大学、いや生涯大学のその学窓を楽しく過ごしてゆく。あるいは生き甲斐を、そしてまた死に甲斐を学び、かつ教えつつ暮らすのである。これが生涯学習あるいは一生学習というものだ。

この生涯学習を実りのあるものとするためには、さっそく今から学ぶ面白さや楽しさなどを足もとから見出してゆくことだ。いろいろな意味で、まわりの人や物やできごとも、皆先生なのだという自覚を深めてゆくことだ。そこにこそ歓喜の源泉がある。

（『選集』より）

え・城谷俊也

一般社団法人倫理研究所法人局